

制作フロー ～版下データ作成から製版まで～

当社の制作課ではデザイン及び入稿データの加工、製版データの作成を行っております。お客様からいただいた入稿データは、そのまま製版出力にまわすのではなく、文字の間違いをチェックしたり、イメージ通りの色が再現できるように色調整を行っています。また紙ベースでの入稿の場合は当社でデザインデータを作成し、校正させていただいたりしています。



現場をご紹介します☆

<p>1 データ入稿</p>  <p>データの形態及び必要情報の確認をします。入稿形態は、メール、CD、DVD など対応いたします。出力見本も添付してください。また、印刷サンプルからも版下作成を行います。</p>	<p>2 版下作成</p>  <p>製版に必要な加工（トンボ、塗り足し、トラップ処理など）を行います。</p>	<p>3 校正確認</p>  <p>誤字・脱字、レイアウト上のズレなどがいないかチェックします。また、プリンター出力したカンブを印刷機の色に近付けるため色調整を行います。</p>
<p>4 面付け</p>  <p>印刷・裁断・加工の都合を考えて面付けをしていきます。</p>	<p>5 CTP 出力</p>  <p>印刷するための版を作ります。現在は CTP によりデータから直接刷版を作ることができるため、製版速度と品質が格段に上がりました。</p>	<p>6 検版</p>  <p>刷版の状態（濃度、キズ、ヌケ）を目視で点検します。問題がなければ次工程の印刷課へ移します。</p>

extra おまけ



製版とは？

左記で登場した「製版」とは印刷の前段階の工程で、一言でいいますと印刷するための刷版（印刷用の版面）を作る作業のことです。下版して刷版を作ってしまうと修正ができなくなります。刷版を作った後で修正が出た場合は、再度製版のやり直しとなりますので注意が必要です。

精肉の簡易包装が増えているそうです！

「簡易包装」について興味深い記事がありましたのでご紹介させていただきます。最近、スーパーの精肉売り場で食品トレーを使わずに、ポリ袋などに入れて鶏肉や豚肉を販売する簡易包装の動きが増えているそうです。ゴミの削減が目的ですが利用客からは「持ち運ぶ際にかさばらない」など、利便性を評価する声があがっているとのこと。また、鶏肉の販売トレーなどが不要になったため、年間で約14トンの容器包装の削減ができ、容器包装や加工コストの削減で、価格を従来品に比べて約 40%下げることができた商品もあるそうです！袋入りを選ぶ理由としては、「不要になった食品トレーの処分が面倒」「環境への影響が小さい」などが多く、こういったことからゴミ削減に向けた意識が確実に高まっているのではないかと思います。（読売新聞より抜粋させていただきました。）



電子書籍は普及していくか？

「iPad」が5月28日に発売されて2カ月が過ぎ、私も遅ればせながら購入しました。印刷屋として、電子書籍の登場で印刷物が減るんじゃないかという危機感もありまして、実際に日常生活の中で試しています。月に1冊くらいは本を読むのですが、本屋で本を物色するのが好きなこともありまして、まだ「iPad」で本は読んでいません。アメリカは、ハードカバーが高い本が多いため、コストが安くなる電子書籍が伸びているらしいですが、日本は文庫本など安くて手軽なものが多いので、そんなに急速に普及はしないんじゃないかと思っています。機械も高いです。でも、「iPad」自体は、画面の大きさがほぼA5サイズなのでネットやメールをするには、手ごろでいいですよ。

駒形（和）

時代の変化

印刷に関わって〇年が経ちました。カタと三角定規を持ち、切り貼りしながら、フィニッシュデザイナー（死語ですよね...）という名刺に浮かれていた新入社員が懐かしく感じられます。

今ではデザインから製版まで、画面を見て確認しながら作業ができ、短納期で高品質な製品を仕上げることも可能です。お客様からの入稿データもイメージに近づけられるように、今までのノウハウをいかし、喜んでいただけるよう努力していきたいと思えます。

桑原

編集後記

先日、大好きなピクサー映画の『トイ・ストーリー3』を観に行ってきました！3D映画初体験だったので、あまりの迫力と映像の美しさに感動しました☆

普段あまり映画には興味がないのですが、次は話題の『借りぐらしのアリエッティ』も観に行きたいです！暑い夏こそ涼しい映画館でゆっくり過ごすのも良いのではないかと思います。

渡辺